

県外転職者数は、昭和35～50年度間に、105,000人と見込まれ、平均して年々7,000人と見込まれている。また就業者の死亡や新陳代謝の数が、427,000人ともっとも多い。年々28,500人を見込まれている、企業の新設、拡張による労働力需要の新規増負は41,000人となっている。

産業別に労働力の需要数は、第8表のとおりである。

第8表 産業別労働力総需要の見通し

(昭35～50)

		一 次 産 業	二 次 産 業	三 次 産 業
総 需 要		43,000	308,000	289,000
(内 訳)	県内他産業への転職者	67,000	-	-
	県外転出及び増	-	49,000	56,000
	死亡及びリタイア	145,000	123,000	159,000
	純減	△ 169,000	136,000	74,000

第一次産業就業者の減少が169,000人と見込まれている。産業構造近代化の影響の大きいことがうかがわれる。世代更新等の補充に要する145,000人、県内他産業に転出する者67,000人の補充要員は232,000人と見込まれるが、第一次産業就業者の減少人員169,000人をさし引いた43,000人が総需要にあたる。新規需要43,000人の供給は、新規学卒者が予想されるが、農業近代化は、43,000人の新規学卒と現在の就業者の肩にかかることになることは、現在の就業者の資質の向上がきわめて重要なことであることにつながっており、注目すべき問題である。

第二次産業の総需要は、308,000人で全産業中もっとも大きく、三次産業の289,000人がこれにつづいて大きな需要を示している。

第9表は、労働力総需要に対する供給計画である。

第9表 労働力需要と供給計画

		昭35～45	昭45～50	昭35～50
総 需 要		420,000	220,000	640,000
供 給	県 学 卒	179,000	93,000	272,000
	内 そ の 他	171,000	76,000	247,000
	県 外	70,000	51,000	121,000

昭和35～50年度間の供給計画の内容は、県内での供給人数は、519,000人で県外からの供給121,000人を見込んで需要をみたす計画である。

県内供給の内訳は、学卒272,000人その他247,000人となっている。県外からの流入は、年平均16,500人を見込んでいる。

産業別の供給計画は、第10表に示したとおりであるが、これによると、第一次産業は、新規学卒にすべてを期待している。第二次産業においては、県内の新規学卒者114,000人と第一次産業からの転職者31,000人、非労働力の労働力化によって84,000人を見込み、県外からの51,000人をもって